

## 戰爭の前途と科學者

何人の豫想をも超絶した大戰果を以て始められた大東亜戰争は、茲に 1 箇年を経過して次第に本格的の段階に突き進んでゐる。即ち戰は愈々總力戰の形態をとり、國家の實力と實力とが相撲つて雌雄を決することとなりつゝあるのである。ソロモン群島やアリューシャン列島の海戰は明かにその現はれと見るべきものであらう。

この事は戰の最初から吾人の豫想した所であつた。豊富なる資源と進歩せる科學とを有する米英のことであるから、必ずやこれ等の實力にもの言はせて捲土重來するであらうこととは、ともすれば緒戦の勝利に酔はんとするものへの絶えざる誠めであつたのである。従つて宏大なる飛行機や艦船やの建造計畫も、吾人にとっては初めから根も葉もない話とは考へられなかつた。又これ等を操縦する人の養成も、元來が科學や器械に興味を持つて居る國民のことであり、大量養成もアメリカ式に行はれなくもないことを考へれば、今や國民は眞の意味に於て擧つて戰ふべき時期に到達したのである。思つて茲に至れば銃後にある我々も血湧き肉躍るを禁じ得ない。

今日頻りに戰力の增强が叫ばれて居る所以は茲にあるのであつて、國民は一人残らずその能力を百パーセント發揮して戰力の增强に盡さねばならぬ。我々科學者も各自の有する知能を傾けて國家に御奉公すべき時が來たのである。然らばその具體的方法はどうすれば好いであらうか。科學者の中には今日或は生産擴充の方面に、或は國民の體力増進に、更に進んでは兵器の改善又は創案に、それぞの技能を驅使して既に戰力增强に直接、間接に多大の貢獻をして居られる人も多いであらう。然し我國の凡ての科學者がそんな状態にないといふことも確かな事實である。又一部の人は現在よりも更に適切な問題を攻究して貴つた方が好いといふ場合もあるであらう。かやうに考へると科學者の動員の問題が今日猶行き届いて居ないといふ感を禁じ得ないのである。それ故軍官民の協力により速かに科學者動員の體制を整へる必要がある。この問題は技術院の創立せらるゝ前に一度盛んに論じられたことがあるが、技術院が愈々創立せられることに決定してからは全く忘れられた

様に姿を隠して了つたのである。その理由は色々とあることであらう。例へば花々しい緒戦の戰果に眩惑せられたといふ傾向もあつたであらうし、技術院ができたから安心だといふ考へ方もあつたかも知れない。或は上述の通り形式上はともかく事實上は動員せられた科學者が隨分増えて來た爲に、一部では動員の必要を感じなくなつた向きもあるであらう。然し今日科學者の全部が百パーセントは戰力增强に寄與してゐないことが事實であり、國家が戰力增强を今日程痛感することのないことを思へば、科學者の動員は既に遅しとの感はあつてもこれを速かに遂行すべきである。

茲に注意すべきことは科學者動員の方法である。徒らに科學者を拉し來つて縁の薄い仕事に従事せしめるといふのは人を殺すものである。各科學者の有する専門智能を充分に發揮し得られる問題を捉へて、これを解決せしめるといふ方法が最も理想的である。勿論凡ての人がかやうにできるとは限らないが、なるべくこれを實現せしめるためには、科學者に現場を見せ現場に親しましめる必要がある。これによつて當事者の豫想しなかつた問題を科學者自らが捉へて、意外の方面から解決の緒を得ることもあるであらう。尤も機密事項のためにそれは實行困難かも知れないが、然し今日は非常の時である。従來の様な機密保持の觀念の下に行はれる委託研究では、大した成果は豫期し得ない。それがどんなものに用ひられるかを知らない様では精神がはいらないし、行詰つた場合に迂廻する術も見出しえないのである。

ともかく世の中は廣いものである。専門家といふものは他の専門家の夢にも知らぬことを常識として持つてゐる。従つて當事者がそれを知らない場合には戰力增强の見地からすると死藏されてゐる譯である。これを百パーセント活用するのが今日科學者の務めではなからうか。それがためには色々の方法があらう。例へば科學者及び技術者の研究成果、試験研究及び製造の設備又は能力を集録して戰力增强に資するのも一方法であらう。又前述の様な内容をもつ科學者の動員も確かに有效な手段と思はれる。